

スポーツ政策の現代的課題

本学卒業生著書

皆さんが関わっているスポーツは、スポーツ政策（法規、制度、条件整備）と深く関係していることを知っていますか。本書では、わが国及び諸外国におけるスポーツ政策の歴史からその現状と課題、さらにスポーツ関係機関の政策などを考察対象として扱っています。スポーツが益々盛んになるなか、本書はこれまでとは違ったスポーツを捉えるレンズを提供してくれます。特に、女子体育大生の皆さんには、私が執筆した「女性スポーツ政策」の節のご一読をお勧めします。



◎スポーツ政策の現代的課題（諏訪信夫、井上洋一、斎藤健司、出雲輝彦、日本評論社、2008年）

（新井喜代加 本学第30回卒業生
筑波大学大学院博士課程在学中）

自然と人間

野生動物写真家としてアラスカに生き、そして不慮の死を遂げた星野道夫さんの33編のエッセイです。アラスカの大自然の中で生き、そして亡くなった著者の温かいまなざしがそのまま文字になり、静かに心に響いてきます。自分自身が何をすればよいのか、どこへ行けばよいのか、道に迷った時に開くと、「小さくても静かに一步を踏み出そう」という心を静かに授けてくれる本です（僕は山に登りたくなります）。忙しい生活を送っている人にこそ、この本を手にしてほしい。ことあるごとに読み返す本の一つです。

（野外運動・東山昌央）



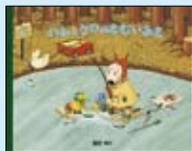
◎旅をする木（星野道夫、文春文庫、1999年）



◎バムとケロのちようび（島田ゆか、文芸堂、1994年）

まさに「絵を読む」そんな感じの絵本です。話の面白さはもちろんのこと、細部まで凝ったイラストに子どもから大人まで夢中になってしまいます。

“宝探し”のおもしろさ 「バムとケロ」シリーズ



◎バムとケロのさむいあさ（島田ゆか、文芸堂、1996年）

主人公のバムとケロだけでなく、脇役にもストーリーが展開されており、ユニークでつい笑顔がこぼれてしまいます。読む度に新たな発見や驚きがあります。宝探しをする気持ちで是非一度読んでみてください。（児教2年・塚田理奈）

DVD・ビデオ入荷情報

◎オリンピック 20世紀の記録 全10巻 (DVD)

今年北京オリンピックが開催されました。このビデオは、近代オリンピックである第1回アテネ大会から第18回長野冬季大会/第27回シドニー大会までをダイジェストで全10巻にまとめられています。初期の頃は、万国博覧会と同開催されたこともあり、第2回のセントルイス大会では、5ヶ月間も開催されていたそうです。また、綱引きや魚釣りなど今では考えられない競技もありました。このDVDにはそうした興味をそられる映像や、人見絹枝や吉岡隆徳の走る姿など、貴重な映像も収録されています。



新規雑誌情報

◎ Tarzan

健康志向の都市生活者に向けて、フィットネスや健康に関する情報を届けるライフスタイル誌です。写真や図も豊富に掲載されており、ビジュアル系の誌面構成によってテンポ良く読めると思います。ちなみに、本誌の読者対象は男性だけとは限りませんが、女性のみをターゲットにした『Jane』という雑誌も不定期で出版されています。併せて読んでみてください。



Information

絵本 1427 冊入荷しました！

これまでも絵本コーナーの充実をめざしてきましたが、この度、新たに1427冊を『この絵本が好き！2006年版』（平凡社、2006）から選び購入しました。ぜひ足を運んでください。



本学関係資料コーナーを充実させます！

学生が学園に対して関心を持ち、理解を深めていただくために、図書館の1階の正面にある本学関係資料コーナーの充実を図っています。学園史に始まり、本学に関係するあらゆる資料を紹介できるコーナーにしたいと思います。また本学の教員、卒業生が出された図書もあわせて収集していますので、是非ご覧ください。（図書館司書・神月博）

編集・発行：東京女子体育大学・短期大学 図書館委員会
東京都国立市富士見台 4-30-1 TEL.042-572-4131

TWCP E Library Report

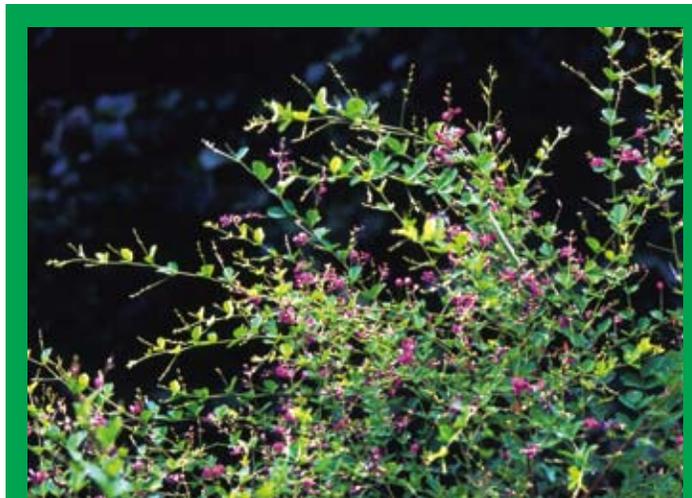
LIVRE

リーヴル

学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学附属図書館報
2008.11 No.8

「落葉」（ポオル・エルレエヌ 上田敏訳）

秋の日の		
ギョロンの		
ためいきの	鐘のおとに	
身にしみて	胸ふたぎ	
ひたぶるに	色かへて	げにわれは
うら悲し。	涙ぐむ	うらぶれて
	過ぎし日の	こゝかしこ
	おもひでや。	さだめなく
		とび散らふ
		おちば 落葉かな。



撮影・渡邊洋

この夏に公開された「西の魔女が死んだ」、いい映画でしたねえ。主役の少女とおばあちゃんが、原作のイメージそのものだと評判になりました。

原作は新美南吉文学賞などを受賞した梨木香歩さんの同名ロングセラー小説です。人間関係がいやになって不登校になってしまった中3の少女「まい」が主人公です。彼女は、森の中で暮らしているおばあちゃんの所へ行き、魔女になるための修行を始めます。修行といっても、ゆっくりご飯を食べたり、野いちごからジャムを作ったり、夜中



◎西の魔女が死んだ (梨木香歩、新潮社、2001年)

「西の魔女が死んだ」に焼いたクッキーを食べたりするだけなのですが、これらはちょっと謎めいたおばあちゃん存在によって、少女の目にファンタスティックな出来事に映ります。そもそもこのおばあちゃんの暮らしは、それまでの「まい」の周囲にはなかった自然体で穏やかなものでしたから、「まい」は人間の生き方についてゆっくりと考え、感じることに **ハートウォーミングな魔女との暮らし** ができたのです。特にハラハラする事件はないけれど心温まる物語で、ラストはジーンときますよ。



◎公式サイトより

映画のおばあちゃん役はサチ・パーカーというアメリカの女優です。この人は大女優シャーリー・マックレーンの娘なのですが、日本ではあまり有名ではありません。「まい」役は高橋真悠という新人女優です。この二人の組み合わせは新鮮で絶妙です。本当のおばあちゃんと孫みたいで、原作の味わいでもある二人の信頼関係を巧みに表現しています。まだ原作を読んでいない方、図書館でお楽しみください。(国語・田中洋一)

色に人間は影響される？ 色の秘密

人はピンクで若返る。
白い下着で健康増進。
赤は血圧を上げ、不眠症には青が効く。
黄色い車は事故が少なく、紫好きには芸術家が多い…。
ヒトの心と体に影響を及ぼす色の秘密がたくさん書かれています。
(学部4年・川又美沙子)



◎色の秘密 (野村 順一、文芸春秋、2005年)

セイジ『セイジ』を読む

この本を手にとったのは、書名が私の名前と同じというただそれだけの理由だった。主人公セイジは「へんな人」「変わってる人」「ちがってる人」といわれるが、どうかすると「とてもマトモな人」なのではないかと思わせる。セイジは常連客以外はめったに来ないドライブインのマスター。オーナー翔子によれば「セイジ君はね、陸の魚なのよ。放っとけば、死ぬわ」。



◎セイジ (社内智貴、筑摩書房、2002年)

小説セイジを繰り返し読む私セイジは、「真面目なことを真面目な顔をして言うのはイヤだ、と大谷崎は寂しそうに顔をそむけた」という、谷崎潤一郎のインタビュー記事に強烈な衝撃を受け、訳もなく涙した高校時代から45年、ちっとも成長していない。

(学長・阿部征次)

動物とわかりあえる楽しさ

自然科学系の内容で、みなさんに興味深く読んでもらえる本を探しました。ノーベル賞を受賞した動物行動学者、コンラート・ローレンツの「ソロモンの指環」です。

卵からかえったばかりの雛が、最初に見た動くものを親としてしまう「刷り込み」が紹介されています。

博士は実験を試みるのですが、その結果とんでもない苦労を味わうことになります。読んでみてのお楽しみ。図書館にあるので是非手に取ってみてください。

(理科教材・圓谷秀雄)



◎ソロモンの指環—動物行動学入門 (コンラート・ローレンツ、日高敏隆 訳、早川書房、1986年)

たまには「古事記」でも！

アンデルセンの童話は知っていても、日本の昔話を知らない人が増えてきました。古事記は8世紀にできたものですが、昔は絵本にもおとぎ話としてよく載っていました。

天照大御神を怒らせる須佐之男命、その婿、大国主命は白兔を助け、釣針をなくした山幸彦の孫は…神武天皇になります。



◎図説 日本の古典 (集英社、1978年)



◎日本古典文学大系 古事記祝詞 (岩波書店、1978年)

ギリシャ神話のオルフェウスにそっくりのイザナキ、各地地名の由来、天皇の夫より兄を愛したサホビメの悲劇など面白いですよ。

(器械運動・森 直幹)



◎日本古典文学全集 (小学館、1997年)



◎赤と黒 (スタンダール、桑原武夫・生島遼一 訳、岩波文庫、1958年)

赤と黒



名作をあなたに

スタンダールは、ナポレオンの時代に生きたフランスの作家です。彼は墓碑銘を「生きた 書いた 恋した」と自ら撰したことでも有名ですが、この作家の生涯のテーマは「生きる」ことへの熾烈な欲求でした。「赤と黒」は、「1830年年代史」という副題を持つ作品で、19世紀初頭に青春をおくった作者の分身ともいえる青年を主人公に物語られていきます。その物語とは、美貌と才能とを武器に、あらゆるものを利用して成り上がっていく若き反抗児ジュリヤン・ソレルが、断頭台の露と消えるまでの恋と野望と挫折の半生です。作者自身は、この作品を「幸福なる少数者へ」として執筆しましたが、その後の文名の高まりとともに、世界文学の中で最も多くの読者を獲得した作品の一つに数えられるようになりました。

若いときの感性でしか味わい取れない読書の喜びがあります。学生時代にぜひ一度読んでみてください。
(教育課程 加藤明)